

## 参加者に話を聞きました



永久津在住  
おおやま のりお  
大山 則夫 さん(66)

### 地域が一丸になれる有意義な行事 選手以外も楽しめる工夫を

高校を卒業した18歳のときから毎年、大運動会に参加しています。当時は、本当に人が多かったことを覚えています。応援合戦もあり、どの校区も盛り上がっていました。稲刈りで忙しい時期ですが、毎年、大運動会に参加するのが楽しみでした。

特に団技は、1位を目指して大会前に練習することもありました。一つのことに向かって地域が一丸となれることは中々ないことで、とても有意義なものだと思います。

現在、参加者は昔ほど多くはないようです。それでも大運動会に参加した人はみんな笑顔になっています。今後は、選手以外の人を楽しめる工夫をみんなで作ってあげればいいですね。

特集

## 50回目を迎えるこばやし大運動会

# 未来へ繋ぐバトン

今回で50回目の節目を迎える「こばやし大運動会（以下、大運動会）」。スポーツを通じた市民の交流、次世代の子どもたちの育成などさまざまな役割を担っています。この歴史ある行事をこれからも続けていくために、今月号では大運動会について考えていきます。

初開催時には  
2万人もの人が参加

「こばやし大運動会」は昭和33年、「市民体育大会」の名称で初めて開催されました。当時は、現在のよう

にスポーツをする機会や場所が多くはなかったこともあり、会場だった小林高校グラウンドには選手や観客を含め2万人もの人が参加したそうです。

競技は、10キロのロードレース、各年代の徒競走、棒倒しや騎馬戦などの団技を実施。選ばれた選手たちは、校区の誇りを胸に競技に臨んでいました。どの校区も優勝を目指す姿は真剣そのもので、会場には緊迫した空気が漂っていたとい

います。また、応援する人たちも真剣そのもの。応援の練習も行われ、本番では伝統芸能が披露されるなど、会場には太鼓や鐘の音に合わせた大きな歓声が飛び交っていました。その一方、幼稚園児の遊戯なども行われ、和やかな雰囲気

となる場面も。各校区が一丸となる様子は、オリンピッククサながらの盛り上がりを見せていたといえます。今回、50回目の節目を迎える大運動会。時代とともに、目的や楽しみ方を変えながら、今も続いています。今月号では、参加者や裏で支える人などの話から、歴史ある「こばやし大運動会」について考えていきます。



### 写真で振り返る大運動会の歴史



平成7年第31回大会。陸上競技場の完成を祝いました



昭和56年第18回大会。騎馬戦を楽しむ参加者たち



昭和55年第17回大会。幻のモスクワ五輪代表の宗茂選手、猛選手を招待



昭和37年の第5回大会。入場行進する参加者たち



昭和38年第6回大会。40代男子の徒競走



昭和33年の第1回大会。優勝した小林校区に優勝旗を授与

# 未来へ繋ぐバトン

## 参加者に話を聞きました



小林高校女子駅伝部  
(須木中出身)  
よしそのしおり  
吉園 菜 さん(17)



野尻町三ヶ野山在住  
まつだ  
松田まり子 さん(59)

### 模範走を見て駅伝部に憧れた 思いを叶え、成長を実感している

小・中学生のときに、大運動会に参加しました。特に中学のときに出場した800mで、同じ学校の友達と1・2フィニッシュしたことは思い出に残っています。また、模範走を走る小林高校女子駅伝部を見て、「私もあの選手たちのようにかっこよく走りたい」と憧れたこともよく覚えています。その思いを叶え、小林高校女子駅伝部に入部し、今年はインターハイに出場することもできました。大運動会は、私が駅伝部に進むきっかけの一つになったイベントでもあるので感謝の気持ちでいっぱいです。

### 若者から高齢者まで楽しめて 他の校区の人とも仲良くなれた

大運動会は、若者から高齢者までが交流できる素晴らしいイベントです。昨年、他の校区とチームになり玉入れをしました。普段は関わることのない人と交流できたのはよかったです。とても楽しいイベントですが、参加者を集めるのが大変です。常会で大運動会の担当になったとき、「忙しい」と断られる方も多かったです。しかし、参加した人は楽しみながら交流し、思い出に残る一日を過ごせていたと思います。もっと多くの人にとって「10月の大運動会が楽しみ」と思えるようなイベントになるといいですね。

## INFORMATION イベント情報

### 五輪代表の田中選手と走ろう 第50回こばやし大運動会



「リオ五輪女子マラソン代表田中智美選手と走ろう」や「ウォーキングイベント」など市民誰もが参加できるイベントとなっています。

- 日程=10月9日(日曜) 開会:9時
- 場所=市総合運動公園陸上競技場
- 問=スポーツ振興課 Tel.22-7911

**今年も開催する運動会  
ぜひ参加ください**

50回の歴史を持つ、「こばやし大運動会」は、スポーツのまち小林を象徴するイベントの一つです。子どもから大人まで、校区内、校区間の交流を深めることができる数少ないイベントでもあります。

また、子どもたちにとっては、目標にする大会でもあり、陸上競技の競技力向上にも繋がっています。

**伝統と地域の誇り込めた  
これからも繋いでいく**

上にも繋がっています。その中で、吉園さんのように全国で活躍する選手も生まれています。

その裏側には、山之内会長をはじめとする、大運動会を支える人がいて、より多くの人が楽しめるような工夫を凝らしています。

50回を重ねる大運動会の伝統と地域の誇りが込められたバトン。みんなで途絶えさせることなく、未来へ繋いでいきましょう。

## スポーツのまち小林の象徴といえるイベント

小林市は「スポーツのまち」と言われています。それは、高校スポーツの活躍だけでなく、50回という歴史があるこのイベントがあるからこそだと思います。

昔は、各地区での運動会が盛んでした。しかし現在は、開催しなくなった地区も多いです。だからこそ、スポーツのまちの象徴でもある大運動会は、これからもずっと続けていかなければなりません。

## 誰もが楽しめる行事 ぜひ参加してください

また大運動会は、同じ校区の知らない人や、他の校区の人たちと交流し、絆を



市スポーツ推進委員協議会  
やまのしげのり  
山之内 茂文 会長

深めることができるとは、大変なイベントです。校区の対抗戦となつていますが、団技などは、みんなで一緒にできる簡単な競技となっているので、運動が得意でない人でも楽しめます。

現在は、参加者が固定化しているという声も聞いています。今後、さらに多くの人が楽しめるプログラムを考えていきますので、ぜひ気軽に参加してみてください。

## 誰でも楽しめる競技を実施 多くの人に参加してほしい

# 大運動会の目的と今後

## INTERVIEW

こばやし大運動会を運営する、市スポーツ推進委員協議会と市陸上競技協会の会長に運動会の重要性と今後について話を聞きました。

## 子どもたちの目標になり 競技力向上に繋がっている

### 小・中学生にとって いい経験になる大会

大運動会には、校区対抗だけでなく、小・中学生が参加する学校対抗リレーや市町村対抗駅伝競走大会の選手選考レースなどがプログラムにあります。

多くの人の声援の中を走ることができるのは、子どもたちにとってもいい経験になっています。

特に、陸上競技の大会が少ない小学生にとっては、大運動会が目標になり、競技力の向上にも繋がっていると思っています。

### 全国レベルを見て 次の世代につなげる

大運動会では、小林高校駅伝部の模範走や小林

秀峰高校新体操部の模範演技も行われています。全国レベルの高校生を間近で見ること、子どもたちの刺激になり、次の世代が育つていくことにつながっています。

また、高校生たちが全国で活躍できるのは、彼らの努力はもちろんですが、多くの市民の皆さまのサポートがあるからです。

そういった人たちに彼らのがんばる姿を見てもらうために、模範走や模範演技は続けてほしいですね。



市陸上競技協会  
やすだしやういち  
安田 昭一 会長